

特集 市長新春対談

NHK解説委員・永井多恵子氏と語る未来の狭山市



狭山市のように環境がよいところに住めば、人は健康でいられますね。

浦和の局長時代には私が県議であったこともあり、とても親しみを感じていたかたでもあります。今日はいろいろ意見交換をさせていただきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

市長 あけましておめでとうございます。
永井 おめでとございます。
市長 いよいよ1900年代が終わり、2000年になりました。今日は新春対談ということで、NHK解説委員の永井多恵子さんにお越しいただきました。永井さんはNHK浦和放送局の局長時代にスタジオを市民の地域活動に開放し、スタジオ・パーク構想の先鞭を切られるなど多分野にわたって活躍されています。

永井 お招きいただき光栄です。市長がおっしゃるとおり、私は平成2年から5年までNHK浦和放送局におりましたので、狭山市には何度か取材に来ました。緑がとても多く、ホッとできるところという印象があります。

1. 環境先進市をめざして

市長 狭山市では環境問題に積極的に取り組んでいます。先ごろ話題になったダイオキシン問題、これは県

の協力を得て近隣市とともに国に強い働きかけをした結果、法案が異例の早さで可決されました。また、ダイオキシンだけでなくもつと広い範囲の環境、例えば河川浄化、緑の保全、ごみ問題、ISO取得などにも、市民と企業と行政が一体となって、できることを足元からやっています。

永井 市民団体との関係はいかがですか。
市長 はい、おかげさまで良好です。狭山市の市民団体はとても一生懸命で、市でも、団体のよいところや提案は積極的に取り入れています。
永井 市民団体というと行政が構えてしまいがちですが、狭山市はオープンマインドでいい関係ですね。
市長 そうです。例えば、不老川という川が市内を流れていまして、この川は3年連続で日本一汚い川という汚名を付けられた川なんです。それが、市民を中心に浄化活動が積極的に行われ、今ではだいぶきれいになりました。この活動はNHKでも



永井多恵子(ながいたえこ)氏 プロフィール (NHK解説委員、世田谷文化生活情報センター運営財団館長)

NHKで経済番組のキャスター、女性問題などの解説で活躍。平成2年からの浦和放送局長時代には、放送局のスタジオを市民の地域活動に開放、NHKのスタジオ・パーク構想の先鞭を切る。平成5年から解説主幹。文化政策、教育、女性問題の解説を担当。平成9年から世田谷文化生活情報センター(劇場、生活工房、情報)の運営財団館長。

主な制作番組は「男女均等法の衝撃」「どうする高齢者の雇用」「芸術の園をどう耕すのか」ほか。共著「21世紀の家族像」NHK出版。「わたし、女性管理職です」学陽書房ほか。論文多数。現在、中央教育審議会、著作権審議会、国民生活審議会委員、文化経済学会理事。



私は人が生きていくうえで、「お互いに助け合う」という気持ちの方が何よりも大切だと思うのです。

取り上げていただき、みんなの励みになっていきます。

永井 そうですね。それはよかったです。
市長 私はこの川を、将来、子どもたちが泳げるくらいきれいにしたいと考えているんです。

永井 子どもが泳げるくらいいいですね。市長、ぜひこのような取り組みの中でメディアもどんどん活用していただく。私は、どんなによい活動をしていてもそれが情報として発信されなければ意味がないと常々思っ

ているんです。

市長 そのとおりですね。それから永井さん、河川だけでなく緑の保全についても狭山市では積極的に取り組んでいます。市内には智光山公園という県下でも大きな公園がありますし、市民の憩いの場である稲荷山公園ハイドパークはいよいよ県営公園となり、もっと多くの皆さんに親しまれることになると思います。さらに、三富地区には東京近郊で一番大きな平地林がありますが、これを県知事が「三富は私が守る。」とおっしゃり、市と市民団体、そして県が手を取り合って守っています。

永井 そうですね。平地林は私も大好きです。それから狭山市では、太陽光発電などの新エネルギーの利用にも力を注いでいらつしやるのか。

市長 そうなんです。今年の4月に移転・開校する入間川小学校では、大きなパネルで太陽光を取り入れ、そのエネルギーで照明や電力を賄う仕組みになっています。また、風力エネルギーも同様に、校内に作るピオトープの水の循環や外灯に使う予定です。雨水も散水に使います。さらに今も一つ新エネルギーを利用する施設を作っています。平成13年度に完成する予定です。

永井 どういう施設なんですか。

市長 市民の健康増進のための施設です。今、稲荷山公園駅前にサビオ

稲荷山という健康センターがあり、だれでも利用できる施設として、多くの市民に喜ばれています。そこで、今度の施設は、主に高齢者と子どものための施設にしたいと考え、歩いて体力をつけられるプールやお風呂なども作る予定です。そしてこの施設は、従来のようにごみ焼却の余熱を利用しませんので、通産省外郭団体の新エネルギーモデル事業として取り上げていただいています。

永井 狭山市ではとても環境に配慮してまちづくりを行っているんですね。これから、それを狭山市の一番の特長としてアピールしていくといいですね。環境がよいところに住めば、人は健康でいられるものから

市長 それから、先日は環境にやさしいお店と事業所を認定しました。
永井 それはどんなお店が認定されるのですか。

市長 環境にやさしい物を買っているとか、使っているとか、作っているとか、そういうことです。

永井 そうですね。そういうお店や事業所が増えて、市民もそこで買い物をしたりすると、さらに環境にやさしい市になっていきますね。

2. 子どもたちの教育

市長 ところで永井さん、先程の入間川小学校には、もう一つ特徴があります。塀がないんです。市民がだれでも入って来られて、ホールや会議室は音楽祭などに利用していただけのようにします。

永井 住民が学校に入っていける…理想的ですね。

市長 ありがとうございます。そして、廊下もなく、続き部屋にしてあります。これは、クラスや学年を越えて、児童が交流できるようにという狙いです。

永井 オープンスクール・エデュケーションですね。

市長 さらに、先程の太陽光と風力のエネルギーが、どのように使われているかを見られるようにします。

永井 そうですね。市長、これはできれば、子どもたちと一緒に手作りでその仕組みを作れたらよかったですね。施設を作るときに、子どもたちが考えながら作り上げる部分を少し残しておく、とても身になっていいと思うんです。

市長 新しいアイデアですね。後から何かを作ると、お金が余計にかかるといのが行政なんです。私はこうだった枠にとらわれずに、市



子どもの心が悪くなっていくのは目に見えないですから、余計気配りが必要だと思います。

民と一緒にまちづくりを進めていきたいと思っています。

永井 市長、世田谷ではBOPPという、児童の放課後遊び場対策が進んでいます。放課後、子どもたちを学校で遊ばせているんですが、厚生省の学童保育室というのは3年生までと決まっていますよね。その壁を取り

り払って、6年生まで延長して行っているんです。区民の中の校長経験者といった教育関係の人を1人と、あとは主婦とか学生を2人子どもたちを見守るために区で採用し、配置しています。

市長 それはいい施策

だ。ぜひ狭山市でも取り入れたいですね。子どもを、教育関係者だけでなく住民と一緒に育てるといった素晴らしい。狭山市でもそういった施策を進めています。部活動などに地域住民の技術や知恵を貸していただいたりしています。

3. いきいきこの街で暮らす

市長 永井さん、狭山市は福祉にも力を入れています。統計を見ますと、幸い狭山市は比較的若い世代の多い市と言えるのですが、それでも高齢化はどんどん進みます。そのような状況の中で、昨年9月に財団法人狭山ささえあい福祉公社を設立しました。これは、よくある行政主導型でなく、市民が中心となって作り上げた民間主導型、全国でも珍しい公社です。企業も車を寄附してくれたり、市民がボランティアとして積極的に参加したり、足りないところは市で補助金を出したりと、よい関係を保って展開しています。

永井 そうですか。

市長 これから介護保険制度が始まると、認定された人は安心できるけれど、だれかの手助けが必要な人はもっともつと大勢いると思います。だから、みんなが地域で暮らし続け

られることを目標に、生活の中のこととした困りごとなどを、この公社の仕組みと市民の協力によって救っていったらいいと考えています。

永井 そうですね。それから高齢者だけでなく、子育てを支援できるような仕組みもあるといいですね。

市長 はい。この公社では、高齢者の介護や支援だけでなく、子育てをしている人を支援するシステムもあり、利用者やサービス提供者がそれぞれのライフスタイルに合わせて、うまく活用しています。

永井 「全ての人のための福祉公社」ですか。いいですね。

市長 人が生きていくうえで、「互いに助け合う」という気持ちは何よりも大切だと思つのですが、介護保険制度が始まると、「行政がやってくれる」と思って、そういう気持ちになくなってしまいそうで、私は少し心配なんです。さらに、今は高齢者の皆さんもとても元気な人が多いですから、そういった働く意欲を汲み取れるといいと思っています。

永井 そうですね。

市長 それから、今は個人主義の傾向がありますが、他人のために自分のエネルギーを使おうという気持ちにならないと、これからの社会は成り立たないと思つのです。

永井 そうですね。個人主義で自分が大事という考え方はいけないことではないけれど、自分と同じように他人のことも大切にするといい社会のルールを確立する必要があります。例えば親を看るといふ意識も、年金をもらっているんだから、それに任せておけばいい。」という考えが多いですからね。

市長 永井さんは、このような状況を改善するためにはどんなことが必要だと思いますか。

永井 そうですね、ハートの温かい人が増えないとだめです。そして、誠実に「あなたが必要です。」と叫んであげることも大切ですね。

市長 そのとおりです。これは高齢者福祉にも言えることで、その言葉をうまく伝え、さらに自分自身でも納得できるような状況を作ることが大切ですね。

4. 心を磨く施策を進めたい

永井 市長、私はこれからの時代は、感性が磨かれる、心が洗われるような施策が必要だと考えているんです。

市長 そうですね。今、子どもが夢を持ってないと言われています。子どもが自分だけで生活できる社会で、

毎日人と口をきかなくても生きていける。だれとも会わなくても大丈夫。そんな状況を、放っておいていいのかと切実に思います。

永井 もっとコミュニケーションをとることが必要ですね。私が館長をしている世田谷のセンターでは、演劇を手段にして、子どもたちの相互理解の力を養う事業をしています。

劇場というのは、生の人間を見つめる場となります。この手法を、学校でも取り入れたらどうかと思うんです。先日はイギリスのロイヤル・ナショナル・シアターを呼んで、アンサンブルとコミュニケーションの学習をしました。子どもたちが体を使っていろいろな音を出し、それがひとつの音楽になる。とてもよかったですよ。

市長 人間が楽器になれるんですね。それはおもしろい。私はいつも考えられているんですが、ウエストサイド・ストーリーみたいなミュージカルを市民会館の大ホールで、市民の皆さんに参加していただいて、上演してみたいのです。そのできごとから、何かが生まれるのではないかと思うんです。

永井 そうですね。教育でもなんでも、受け身ではなく、自ら行動すること、そしてもっと体を使ったほう



これからの社会には、感性が磨かれるような、心が洗われるような施策が必要です。

がいいと思います。今までは、大脳の一部しか使っていなかったように感じます。もっと自分の体を使って何かをしたほうがいいです。今みんな「Eメールが何通来た。」って喜ぶけれど、手紙が何通来ても喜ばないですよ。

市長 そうですね、人間形成が大切ですね。

永井 そして、取捨選択をする能力を身に付けること。知的な部分だけでなく、感性も大事にするのが人間であると思います。私の仕事は、その感性を養う部分を担うことなんです。

市長 そういった、感性を養うための提言をいただけますか。

永井 現在使われている学習指導要領は、知的なところは網羅しています。でも、体を使ってどんな風に感性を養うか、というところは欠けている気がします。例えば、国語はとても大切にされ、みんな一生懸命教え、勉強しています。でも、日本語についてというのは「存じのよう」にいろいろなニュアンスや表現があつて、それをいかに伝えるかという学習をしないから、書くのも話すのも表現が下手なんだと思います。

市長 そうですね。

永井 そこが課題だと思えますよ。

市長 これからは、国際社会の中で日本人としてアピールできることが必要になってくると思います。文化活動も同じですね。

永井 市長、おもしろい話があるんですよ。「能や狂言は、腹の文化だ。」という証明ができたんです。日本古来の伝統芸能である能・狂言は、腹式呼吸で演技するんです。こんな素晴らしい、世界に通用するオリジナリティーを、これからもっと大切にしていきたいですね。

市長 そのとおりです。ところで永井さん、私は最近、中学校の部活動がなくなってきたことを残念に

思っているんです。

永井 でも、学校でできなくなってしまうたら、公民館などでやればいんじゃないかと思えますよ。教育は地域社会全体で担うべきです。学校の先生に、あれも・これもと今以上に求めても、応えるのは難しいですよ。

市長 そうですね。環境問題は目に見えますから、早く対応できるし、市民の注目もあるんです。でも、人の心、子どもの心が悪くなっていく過程は目に見えないですから、こういった目に見えない問題にも気を配りながら、施策を考えていく必要がありますね。

永井 市長は海外での体験などを通して多様なアイデアと経験をお持ちです。そして市民の声を聴く柔軟な感性をお持ちだと思います。これからもそのアイデアを活かし、狭山市をもっと素晴らしい都市にしていってください。

市長 ありがとうございます。私も、男性とか女性という性差を越え、老いも若きも手を取り合い、バランスよくまちづくりを進めていきたいと考えています。今日はお忙しいところ、どうもありがとうございました。

問い合わせ広報課へ内線7161